

さいたま市 退職校長会会報

発行責任者
桑原 裕通

ち、そこには自分は○班だとう意識がなく、また相手の人はどこの班なのかという意識もない、班という壁がそこには存在しないと思ったからです。

私たちが魅力ある退職校長会を目指すのは、私たち退職校長

が充実した日々を過ごすための一助になること。また、現職の

校長先生方が本会が魅力ある退

職校長会であることを知り、新

会員になつていただきたいこと。

そして、懇親会における雰囲気が本会全体に広がつてほしいこ

とです。

会員の皆様には趣旨をご理解いただき、今後の取り組みについてご協力くださるようよろしくお願いいたします。

◇談話室「私の一言」
〔令和六年度教育行政方針〕の概要

鵜飼 良昭・米山 文雄
石黒真愁子・金子 要一
新井 英人・矢部えつ子

豊島 登・瀬戸口秋彦

5

3

4

2

◇さいたま市立小学校校長会
会長からのメッセージ
さいたま市立小学校校長会
会長 永山 誉様（高砂小）

◇卷頭言
さいたま市立小学校校長会
会長 桑原 裕通

目次

－桑原 裕通 会長－

題字：桑原 裕通

◇心覚え
◇編集後記

10 9 8 7 6

**さいたま市立小学校
校長会会長からの
メッセージ**



**組織づくりと
的確な決断**

さいたま市立小学校校長会

会長 永山 誉

(高砂小学校)

校長の職務とは「校務をつかさどり、所属職員を監督する」とありますが、自分なりに言葉を言い換えれば、校長は、ビジョンを示し、決断し、組織を動かしながら人を育てることがその職務であると考えています。校長は、いわゆる『鳥の目』『虫の目』『魚の目』をもって、

世界の中の動きを受け止めながら確固たるビジョンを示せないことは言うまでもありませんが、日常の対応において様々な判断を迫られること多々あります。校長は常に想像力を働かせ、想定外を生まないように対応しているわけですが、パナソニックグループの創業者である松下幸之助氏は、PHP研究所の機関誌に、六〇〇%の見通しと確信ができたならば、その判断はおおむね妥当と見るべきだろうと言っています。そして、そのあとは、勇気と実行力が大切であるとも言っています。六〇〇%の判断で、一〇〇%の確実な成果を生み出していく。謙虚で真剣に判断し、一〇〇%にする果断な勇気と実行力を持ち合わせることが校長として大切であります。そのためには、的確な情報が校長に集まる組織づくりが大切であり、人を育成することが組織づくりの第一歩となります。

校長は孤独であると言われま

すが、理想とする組織を作り上げるためにも、また円滑な学校経営のためにも重要な役割を果たすのが、校長会の組織です。校長会の組織があるからこそ、私たちも孤独ではなく、果断な勇気と実行力を發揮することができます。小学校校長会は、諸先輩方がこれまで大切にしてきた「学び実践する校長会」という理念の下、今年度の推進課題のうち「子どもも教職員もWe充実と推進」をすべての活動の柱として取組んでいます。今、教育の世界では、「We11-being」をキーワードに語られることが多くなっています。幸せは、だれのためか。もちろん個人の幸せの追求のためであります。社会を構成する皆の幸せを調和的・一体的に育むことが大切であると考えます。このことは、個と集団の在り方、個と社会の在り方を大切にした日本社会の中心を成すものであり、現在の教育の目指す方向で

あると考えるからです。現行の学習指導要領では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら主体的・対話的で深い学びを実現させることを目指していますが、一人一台端末やクラウド等のICT環境下、デジタルの優位性を活用した教育活動が展開されるよう、た教育活動が展開されるよう、教える側主体から学ぶ側主体へと学び方が大きく転換してきています。しかし、私たちが忘れてはならないのは、学校という場がどういうところなのか、個や集団の学びを充実させるために、一人一台端末を活用するのであって、手段と目的をはっきり区別しながら教育活動にあたっていかなくてはならないことを再認識しているところです。

結びに、桑原裕通会長をはじめ、さいたま市退職校長会の皆様には、校長としての在り方や学校経営につきまして、今後とも御指導を賜りますようお願い申し上げます。

さいたま市中学
校長会会長からの
メッセージ



挑戦

「前へ、挑み続ける」

中学校長会

会長 小熊誠
(日進中学校)

六月には、教育長を初めて二期務めあげられた、細田真由美教育長が退任され、七代目として竹居秀子教育長が就任され、さらに大きな変革の年を迎えるようとしています。創立二十三年目を迎える本会も、令和六年度を新たな「挑戦」の年と捉え、本年度のさいたま市教育委員会教育行政方針である、一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する「Well-being (幸せ) を保障する教育」の実現を目指して—予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーをはぐくむために—の実現に向け、これまで諸先輩方の築いてこられた伝統を継承し、一步でも前へ進むべく、全力で挑み続ける所存です。

世界は、今、従来の日常や生활様式、働き方、価値観などが大きく変化した「新しい時代」を迎えていきます。教育現場においても全く同じ状況下にあります。長く続いた多種多様な制限による子どもたち自身の行動や、彼らを取り巻く環境の変化、加

六月には、教育長を初めて二期務めあげられた、細田真由美教育長が退任され、七代目として竹居秀子教育長が就任され、さらには大きな変革の年を迎えるようとしています。創立二十三年目を迎える本会も、令和六年度を新たな「挑戦」の年と捉え、本年度のさいたま市教育委員会教育行政方針である、一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する「Well-being (幸せ) を保障する教育」の実現を目指して—予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーをはぐくむために—の実現に向け、これまで諸先輩方の築いてこられた伝統を継承し、一步でも前へ進むべく、全力で挑み続ける所存です。

世界は、今、従来の日常や生활様式、働き方、価値観などが大きく変化した「新しい時代」を迎えていきます。教育現場においても全く同じ状況下にあります。長く続いた多種多様な制限による子どもたち自身の行動や、彼らを取り巻く環境の変化、加速度的に進んできているデジタル化の波等により、学校の教室や授業の風景、各行事への取組も大きな転換期を迎えていきます。私たちのさいたま市においても、さいたま市スマートスクールプロジェクト、スクールダッシュボード、Solaar、学びの多様化学校、部活動の地域移行、令和九年度からの公立高校入試改革等、私たちも見たことない景色、経験したことない大きな変化が巻き起こっています。そんな変化のなかで未来を生き抜く子どもたちが、学校の、地域の、日本の、世界の主権者として成長していくために、本会にはやるべきことがあります。それは、私たちが今まで大事にしてきた、いつの世になつても変わらず伝え続けなければならぬ「心」や「伝統」、加えて「新しい時代」において生まれた今までにない「技術」や「設備」、まさに「不易と流行」。この二つを子どもたちに常に伝え続けなければならないということです。それには、まず私たち

が「学び」を止めてはいけません。常に学び続けること、それが「前へ、挑み続ける」私たちの必須条件であると思います。いつの世になつても私たちの使命は変わりません。それは、未来を創る子どもたちの命を守り、磨き、輝かせることです。さらに、私たちの宝である子どもたちを学校の主役としてど真ん中に置き、子どもたちはもちろん、地域で暮らす全ての人々が幸せになる社会を、私たち校長が中心となり、そのような進化した社会を創りあげていくことです。本会のこれらの「挑戦」が、さいたま市の目指す人間像である「世界と向き合い、未来の創り手として輝き続ける人」の実現に繋がる道となると確信しています。

今後とも桑原裕通会長様を始め、退職校長会の皆様方には、本会並びに各学校の最大最強の守護神として、より一層の御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

令和六年度 さいたま市退職校長会 定期総会 概要

令和六年度さいたま市退職校長会定期総会が、五月十七日（金）ブリランテ武藏野四階With Youさいたまにおいて、会員三十六名の出席を得て開催された。ご来賓には、埼玉県退職校長会会長、新井俊一様さいたま市立小学校校長会会長永山誉様、さいたま市立中学校長会会長、小熊誠様をお迎えした。

一 開会行事

佐藤博志副会長の司会進行で金子敏夫副会長が開会のことばを述べた。



二 議事

昨年度ご逝去された十五名の会員のご冥福を祈り、黙祷する。桑原裕通会長のあいさつでは「本会の設立二十周年を迎える、

令和六年度さいたま市退職校長会定期総会が、五月十七日（金）ブリランテ武藏野四階With Youさいたまにおいて、会員三十六名の出席を得て開催された。ご来賓には、埼玉県退職校長会会長、新井俊一様さいたま市立小学校校長会会長永山誉様、さいたま市立中学校長会会長、小熊誠様をお迎えした。

次に、ご来賓から祝辞をいただいた。埼玉県退職校長会会長、新井俊一様からは、「新会員の加入率を上げるために地元の新会員の紹介があった。

次に、ご来賓から祝辞をいただいた。埼玉県退職校長会会長、永山誉様、さいたま市立中学校長会会長、小熊誠様をお迎えした。新井俊一様からは、「新会員の加入率を上げるために地元の新会員の紹介があった。

次に、ご来賓から祝辞をいただいた。埼玉県退職校長会会長、永山誉様、さいたま市立中学校長会会長、小熊誠様からは、「子どもたちを取り巻く環境が急激に変化し教室や授業風景は大きな転換期を迎えており、未来をつくる子どもたちの命を守り、磨き、輝かせていく」との話があった。

四 懇親会

総会終了後、一階のレストランで五年ぶりとなる懇親会が開催され、ご来賓を交えて有意義に親睦を深めることができた。

教育情報 さいたま市の教育～「令和6年度教育行政方針」の概要～

一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する 「Well-being（幸せ）を保障する教育」の実現を目指して

【令和6年度のさいたま市教育の進むべき3つの方向性】

I. 「さいたま市スマートスクールプロジェクト（SSSP）」の推進により、一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、Well-being（幸せ）を保障する教育の実現

現在、学校では、1人1台端末やクラウド等のICT環境の下、デジタルの優位性を活用した教育活動が展開されるようになり、教える側主体から学ぶ側主体へと学びのあり方が大きく転換しようとしています。そこで、SSSPのビジョンである「一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、新たな価値を創造していく力をはぐくむ教育の実現」に向け、「学び方」「教え方」「働き方」にICTの効果的・効率的な活用という横串を刺し、ダイナミックな教育改革をこの4月より本格的に推進します。本市の教育の質の一層の向上により、子どもと教職員双方のWell-being（幸せ）の実現を目指します。

II. 教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）とリアルが創り出す、誰一人取り残さない多様な学びの実現

誰一人取り残さない教育の実現を目指し、これまで培ってきた「不易」と、DXの力を借りた「流行」をバランスよく組み合わせた、新しい時代の「さいたま市の教育」を力強く推進していきます。本市では、ICT環境の下、子ども一人ひとりの状況に応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする「協働的な学び」、さらには新たな居場所となるメタバース空間上の教室や自習室等での学びなど、多様な学びの選択肢を引き続き提供してまいります。また、4月より全ての学校に、登校はできるものの教室に入れない子どもを対象とした居場所として、校内教育支援センター「Sola（ソラ）るーむ」を導入するとともに、市長部局と連携し、子どもが放課後に安心して過ごせる居場所として「さいたま市放課後子ども居場所事業」を推進します。

III. 幸せな人生と豊かな社会の創造を循環させるエンジンとなる「コミュニティ・スクール」の推進

Well-being（幸せ）が実現される持続可能な社会とは、学校という「生涯の学びの拠点」を核として、子どもたち一人ひとりが幸福や生きがいを感じられるような学びを、教職員と保護者や地域の人々が共に創っていくことを通して、学校に携わる全ての人々のWell-being（幸せ）が高まり、その広がりが地域の人々や地域そのものを支えるという循環型社会だと考えます。その循環のエンジンとなるのが、「コミュニティ・スクール」です。今年は、地域コミュニティに根差した個人と地域全体のWell-being（幸せ）の向上のために、地域社会の担い手となる子どもの声が、学校運営や地域活動などに反映されるようコミュニティ・スクールを一層推進してまいります。加えて、子どもが主役となりエージェンシーが発揮される場面や機会の創出に向け、生涯学習関連施設をはじめとした地域学習資源の積極的な活用促進と、企業・NPO、大学等多様な担い手と連携・協働した学習環境の整備に努めてまいります。

- I 12年間の学びの連續性を生かした「真の学力」の育成
- II グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成
- III 人生100年時代を輝き続ける力の育成
- IV スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- V 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備

談話室

ー私の一言ー

今まで通り自分らしく

鶴飼 良昭

私は学校が大好きです。私にとっての学校は、子供・保護者・教員・地域の方・施設設備等全てです。その全てに関われる学校地域連携コーディネーターは私にとって理想的な仕事で、再任用が終了して二年目になりますが現在も学校地域連携コーディネーターとして小学校に勤務し、学校の役に立つことは何でも取り組んでいます。

私は教育学部卒業ではなく、山学（岳）部卒業と言われるくらい山ばかり行っていました。クライミングを一緒にやつていた友人をガンでなくしてから一人で行っていましたが、数年前から、退職校長会のY先生と一緒にとてもパワフルな方で、山の体力・技術は絶対の自信がありましたが、Y先生のパワフルさに完全に負けており、トレーニングの必要性を感じるこのごろです。

もう一つの趣味は、アマチュア無線です。声の無線もやりますが、簡潔で受信技術、送信技術が求められ、テクニカルな通信方法である電信（モールス）が好きです。マンション住まいなのでアンテナ設備はپアですが、日本の全市郡区町村、全世界の国との交信を目指に取り組んでいます。全市郡区町村は達成できましたが、全世界は残り十五%です。

退職時に面接で「退職したらやりたいことはありますか」と聞かれました。「ありません」現役の時からやりたいことはやつきましたから」と答えました。退職後に様々な新しいことに挑戦されている諸先輩方と違い、今まで通り自分らしく生きていきたいと思います。

風の吹くまま

米山 文雄

海なし県埼玉に、ウォータースポーツのメッカになっている場所がある。さいたま市から戸田市にある彩湖だ。彩湖の名称は公募により付けられ、命名者はお一人に元高砂小学校長の泊善三郎先生がいらっしゃる。

その彩湖が、ウインドサーフィン（WSF）やSUP、板（艇）を水面から浮かせて走る（ウォイル（WF）等が行える場所として多くの人が集まる場所となっている。かく言う私もWSF愛好家の一人である。休日の駐車場は、多くの道具を積んで、海がある都県ナンバーの車も多数駐車している。

彩湖が解放された当初（平成九年頃）、秋ヶ瀬橋に近い湖面は手漕ぎボートの類の利用は可能だったが、WSF利用は水質維持や安全上の観点から禁止されていた。退職後に様々な新しいことに挑戦されている諸先輩方と違ひ、今まで通り自分らしく生きたいと思います。

WSFの楽しみ方は様々である。波の立たない彩湖では、風の勢いで湖面を直線的に走らせる。波の立たない彩湖では、風が主流だったが、ここ数年では、水面を浮かんで走るWFが多くなっている。こうした遊びは若者が多いように思われるが、さにあらず、人生の先輩方が多くいらっしゃる。上場企業の元管理職、大病院のドクター、スターのオーナー、経営者等々、風が吹くと彩湖に現れる人々は様々である。そうした人生の先輩や異なる職種の方々と、共通の趣味を通じ触れ合うことが、現役時代からの楽しみであった。最近、若い頃にできていたことができなくなってきたが、これからも風の吹くまま気の向くまま楽しんでいきたい。

音楽の力

石黒真愁子

音楽は人々の心を勇気付け、励まし、時には悲しみを浄化する。音楽は、生命を支える大きな力をもっている。私はその音楽の素晴らしさを子供たちに伝えたいという強い思いから、音楽科の教師となつた。

私自身の音楽活動の中で、忘れられない経験がある。それは、

ベートーベンの「交響曲第九番」のソリストとして歌った時のことだ。通称「第九」は、ベートーベンによって、歴史上初めて交響曲に人間の声、つまり歌が組み入れられた革命的な楽曲である。終楽章、ソリストの一人として全身全霊で歌い上げていた私の背後から、百名を超える合唱隊の歌声が、巨大な生命体となつて、おしよせ、私の歌声を

包み込みながら観客席へと流れていった。有名な「歓喜の歌」の一節である。あの時の鳥肌の立つ感覚は、生涯忘れられない。

「輝く生命」という言葉が適切かもしない。私も生きている。皆も生きている。人は一人でハーモニーを生み出すことはできない。そのような思いが実感をもつて湧き上がってきた。まさに、音楽の力である。

そして、教師生活を振り返る時、学校での音楽活動を通してもその時と同様に、魂の震えるような感動体験を児童生徒と共に共有できたことは私の宝である。その体験に支えられ、私は今、音楽人生の集大成として、教師としての実践への意味付けを行うべく、音楽が人間形成に与える力について研究を進めている。

こういう生き方もある

金子 要一

昨年退職した。思えば、八年間の教員生活を一気に駆け抜けたというのが実感である。生活の中心は仕事であった。

初任教では、学校付近はおろか、時には校地内をバイクが猛烈な音を轟かせながら走ることがよくあった。生徒の服装も、標準服に比べて様々な所が長かたり太かったり、はたまた短かたりするものもあった。そ

の頃の私は教員としての経験が浅く、年齢も若い生徒の指導に難渋することもあったが、試行錯誤しつつ何とか克服してきた。

部活顧問に關しても、丸一日指導してワンコインという時代、休日も無く、毎週末よく続けてきたものだと、今更ながら思う。

管理職では、生徒と教職員の命を預かる者として悪戦苦闘の日々だった。なかでも、校長になつた

なつて定年が近づいてきた頃のコロナによる経験のない臨時休校等の対応では、新たに発想と工夫、そして、教職員との強い結束で乗り越えることができた。さて、退職後は最終勤務校の隣の学校で学校地域連携コーディネーターをしている。仕事内容は身近にいたのに熟知しておらず戸惑いもあつたが、生活パートナーに関しては自分でも驚くほどすぐに慣れた。暗くなる前に退勤し、趣味に費やす時間もできた。もう元職に戻る気は無いし、戻れる自信など全く無い。

そして、私の退職を機に、同業者だった妻も早期退職をした。お互い、心にも時間にもゆとりが生まれた。私がハンドルを握り旅行にも度々行くようになつた。現職の頃は長期休業中に観光名所を巡る旅であつたが、今は、紅葉や桜など、季節の移ろいを追い求めるものになつた。

「こういう生き方もあるんだ」と、今、しみじみ思つてゐる。

「ぐるっとバス」で 新たな東京を知る

新井 英人

東京を中心に百一個所の美術館・博物館等の入場が無料になり割引になつたりする「ぐるっとバス」チケットが二枚当たつた。東京を改めて知る良い機会と思い、紅葉のきれいな十一月より妻と一緒に都内巡りをすることにした。

まず、わが子が小さい頃よく連れて行つた上野動物園を訪れてみた。朝の光がまだ柔らかい中、開門を待つて入園する。遠足や修学旅行の子ども達が楽しそうにお目当ての動物に向かって足早に歩く姿に、かつての仕事を思い出す。象の健康診断をして足早に歩く姿に心が和んだ。園内を歩きながら、色とりどりの鳥たちのさえずりや、トランの威厳ある佇まいに出会い、都会の喧騒を忘れさせてくれる

一日となつた。

日を改め訪れたのが、東京都美術館。ここでは、ローマ展を見学し、三十数年前のローマ日本人学校での生活を思い出した。

特に、静謐な空間で照らし出される絵画に、心を奪われた。

また、小石川後楽園では、江戸の風情を感じることができた。

江戸時代から続く日本庭園の美しさにしばし見入った。都会の真ん中にありながら、紅葉に染まる自然が織りなす風景は、穏やかな時間を提供してくれた。

さらに、旧古河庭園、紙の博物館、渋沢栄一記念館等の様々な場所を訪れた。

この「ぐるっとバス」を使った東京探訪は、多くの発見と感動に満ちていた。この体験は、新たに東京を知る良い機会となり、今の生活への満足感へつなげることができた。今年は、どこを訪れることができるか楽しみにしている。

再会を楽しみに 多くの出会いを 大切にする

矢部えつ子

昨年度、都内の大学で非常勤講師として勤務していた時のことである。講義が始まる前、一人の学生が近づいてきた。

「先生は、○○小学校の校長先生でしたよね。」「私のことを覚えていらっしゃいますか？」と一枚の写真を見せてくれた。

その後何回かの講義を終えてその教え子は、定期試験用紙の裏にある自由記述欄にこう記していた。「先生の授業は一度も寝なかつた」

大学での授業をしていると、時に居眠りをしている学生に出会う。しかし、私の教え子は、元校長ということもあり、興味をもって授業を受けてくれたようだ。まさに嬉しい限り！今は、職員玄関前で一緒に撮つた「卒業式」の時の写真だった。

突然のことに戸惑いもあつたが、写真を見て理解できた。それは、職員玄関前で一緒に撮つた「卒業式」の時の写真だった。写真でほほ笑む姿と大学生になったその子の顔を見比べた。「え？ ○○さん？」一瞬で十年の時が縮まった。校長として自分の手でしっかりと卒業証書を渡した子どもに、またこうして出会えたことに懐かしさと成長したことの多さを感じている。何年か後の再会を期して、たくさんの人との出会いを大切にしたいと思うこの頃である。

その様子に驚き歎声を上げてくる

れた。このような再会があることは、まさに教師冥利に尽きると感激するとともに、感謝の気持ちでいっぱいだった。

余命を考えた?

歯科治療

豊島 登

昨年、突然の歯痛に悩まされた。右下の奥歯、もう十年ぐらいい前にひどい虫歯で抜歯し、ブリッジという治療をしたところである。すぐにかかりつけの歯医者に連絡したものの、予約がいっぱいなかなか診てもらえない。痛み止めで何とかしのいだ。外見は醜く腫れ上がっている。遠い記憶の小学校低学年の頃、学芸会でやった「こぶとり爺さん」を思い出す。仕事も手につかず、三日連続で年休を取ることに。恐るべし、歯痛。

数日後、ようやく歯医者へ。レントゲンを撮つたり何だりしたが、ブリッジの土台になつている奥の歯が根元からダメになっている。抜歯は免れない。

本を失うことになった。問題はその後のこと。歯医者の説明では、「入れ歯」か「インプラント」か、二つの方法があるといふ。インプラントは保険がきかず、一本につき、うん十万円の高額。しかし、かむ力は通常の歯とほぼ変わらない。歯医者は、「患者さんはまだ若いから……」としきりに言う。

「俺はまだ若いのか?」

これまであまり考えてこなかった。「あと何年生きられるか」問題に向き合うこととなつた。

妻とも相談し、熟考して出した結論は、インプラント治療。

CTを撮り、埋め込む位置をミリ単位で決め、三月に手術。

さらにもう一回、八月に仮歯を入れる手術。一年がかりの治療。

ということは、完了前にすでに一年が過ぎているということか。

四季を楽しむ

瀬戸口秋彦

退職して七年目を迎え、通勤

経路として元荒川の土手を使用している。元荒川は四月に水が満水になり、岸辺の木々の緑が大変きれいな風景を作り、冬場は水位を下げ、川岸の水辺で鳥が戻れる。三月には土手沿いに桜が満開となる。私はこの元荒川の四季を見るのが楽しい。

現在、学校地域連携コーディネーターとしてチャレンジスクールで、地域の方や学生スタッフに恵まれ、季節感のある質の高い内容を目指した活動に感謝の意である。また、地域の方々が子どもの教育の取り組みにさりげなくご支援いただいている事に日々感謝の連続である。

先日、突然ゲリラ豪雨が降り、さらにもう一回、八月に仮歯を地震やゲリラ豪雨、熱中症予防を含めた防災減災について今以上に子ども達に伝えていく必要があるような気がする。

そして、皆さんの安心安全な未来になることを願っています。

にした。気候の激しい変化が最近、多くなってきた。日本全体で地震が多くなっていることも危惧される。

私の出身の鹿児島県霧島市は、桜島を中心とした姶良カルデラの中にある町である。実家は錦江湾を隔てて桜島がきれいに見える場所にある。幼い頃、桜島の噴火の灰が空から降ってくるのが、日常茶飯事で、近くの家の軒の下に身を寄せることも度々であった。また、台風銀座と呼ばれるぐらい、台風の進路にあたる場所でもあった。幼いころから両親に自然の美しさと怖さを同時に教えられた。

今後の気候状況を考えると、地震やゲリラ豪雨、熱中症予防を含めた防災減災について今以上に子ども達に伝えていく必要があるよう気がする。

窓から様子をみていると部活動帰りの中学生三人が走りながらびしょ濡れになっている姿を目

心覚え

令和6年度さいたま市退職校長会 役員名簿

顧問	西村 眩(浦和)	竹本 昭剛(大宮)	関口 靖彦(浦和)	加々美健一(大宮)
会長	桑原 裕通(与野)			
副会長	金子 敏夫(浦和)	新井 広(与野)	佐藤 博志(大宮)	佐藤 憲克(岩槻)
監事	橋 克彦(浦和)	菊地 豊(与野)	鶴沼 邦雄(大宮)	新井このみ(岩槻)
理事	高取 廣美(浦和)	山崎 俊(浦和)	木村 栄二(浦和)	松下 道夫(浦和)
理事	高橋 正(浦和)	星野 貞邦(浦和)	脇田 茂雄(浦和)	大澤 初枝(浦和)
理事	秋山 正光(与野)	浅見 茂男(与野)	藍川 達雄(大宮)	金子 泰久(大宮)
理事	佐藤 薫(大宮)	渡邊 正道(大宮)	中村 秀男(大宮)	渡邊 朋久(大宮)
理事	橋本 栄(大宮)	田代 敏生(大宮)	西川 和利(大宮)	岡野 功(岩槻)
理事	秋元千代子(岩槻)			
事務局長	野口 浩(与野)			
幹事	蓮見 哲(浦和)	石川 信和(浦和)	並木 昌和(浦和)	上原 善一(浦和)
幹事	大谷 慎也(浦和)	金子 強(与野)	山岡 康幸(与野)	星 美千也(大宮)
幹事	豊島 登(大宮)	大澤 敬(大宮)	鯨井 幹夫(大宮)	斎藤 栄一(岩槻)
幹事	萩原 昇(岩槻)	井上 修一(岩槻)		

令和6年度さいたま市退職校長会 会員数 [令和6年5月1日現在]

浦和班	160名	与野班	40名	大宮班	168名	岩槻班	48名	合計	416名
-----	------	-----	-----	-----	------	-----	-----	----	------

さいたま市立小学校校長会 役員等運営組織

顧問	三島 公夫(三室小学校)		
会長	永山 誉(高砂小学校)		
副会長	玉川 徹(大宮東小学校)	野津美智代(大宮南小学校)	引間 陽子(指扇小学校)
副会長	小野 圭司(与野本町小学校)	河野 秀樹(美園小学校)	
監事	石川 順一(木崎小学校)	永井 有司(北浦和小学校)	
幹事長	西谷 健児(春野小学校)		
幹事	緒方 健二(上木崎小学校)	三村 美延(針ヶ谷小学校)	千明 勉(春岡小学校)
幹事	吉岡 貴和(大戸小学校)	宮本江津子(河合小学校)	
書記	中野 緑(浦和大里小学校)	安島 俊之(栄小学校)	
会計	山口 美保(田島小学校)	武田 泰之(大砂土東小学校)	

さいたま市中学校長会 役員名簿

顧問	加藤 明良(片柳中学校)		
会長	小熊 誠(日進中学校)		
副会長	山浦 麻紀(岸中学校)	玉崎 芳行(常盤中学校)	大河内範一(南浦和中学校)
副会長	小林 正樹(大谷口中学校)	小林 正美(大宮北中学校)	
幹事長	田村 浩司(大宮南中学校)		
幹事	田中 一秀(本太中学校)	渡邊 哲哉(白幡中学校)	浅見 正史(大宮東中学校)
幹事	小倉 弘一(春里中学校)	森角由希子(大宮西中学校)	渡部 智昭(宮前中学校)
幹事	太田 錠一(植水中学校)	坂東 千里(第二東中学校)	金子 宜史(岩槻中学校)
幹事	鈴木 純(川通中学校)		
監事	中村 朗(七里中学校)	瀬田 俊志(桜山中学校)	

さいたま市立の学校 [令和6年5月1日現在] (児童生徒数・学級数は、特別支援学級含む)

学校種別	学校数	児童・生徒数	学級数	市費教職員数
小学校	104校	68,585名	2,458学級	3,322名
中学校	58校	31,679名	997学級	1,836名
中等教育学校	1校	925名	24学級	97名
高等学校	3校	2,885名	72学級	213名
特別支援学校	2校	98名	37学級	101名

編集後記

会報第40号をお届けいたします。令和6年度さいたま市退職校長会総会を開催することができました。本号はその報告を含め、いただいた玉稿を中心に編集いたしました。この場をお借りし、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。
(広報部担当幹事 豊島 登)